

一生懸命がかっこいい！

港区立御成門学園御成門中学校

第9学年No. 15

令和8年10月2日



＜10月を迎えて＞



10月に入り、朝夕の涼しさに季節の移り変わりを感じる頃となりました。この時期は、季節の変わり目で体調を崩しやすくなります。風邪や体調不良を予防するために、しっかりと自分の健康管理に気を配りましょう。これからの1か月は、行事や期末考査に向けた準備が重なる時期でもあります。元気に学校生活を送り、中学校生活最後の合唱コンクール、学習発表会、期末考査に向けて全力で取り組みましょう。

＜身近な街のコンサート＞

9月26日（土）PTA主催、地域の交響楽団の方による身近な街のコンサートが開催されました。吹奏楽部の演奏もありました。指揮者体験として9年生代表は3組の生徒が「カルメン」より「闘牛士」のタクトをふりました。お礼の言葉を3組の生徒、花束贈呈を1組と3組の生徒がそれぞれ務めました。フィナーレの校歌合唱では、指揮を3組の生徒が担当しました。いつものピアノ伴奏ではないオーケストラと一緒に校歌合唱となり、会場が大いに盛り上がりしました。



＜2学期中間考査を終えて＞

中間考査の答案が返却されました。夏休みの勉強の成果を確認する機会となったのではないのでしょうか。11月には2学期期末考査があり、ここから期末考査に向けてモチベーションを、どのように保っていくかが大切になります。まず、中間考査の結果をしっかりと受けとめ、振り返りを行いましょう。テストで間違えたものを確認するだけでなく、自ら課題を見つけることで、具体的な計画を立て学習を進めていくことができます。

次の期末考査は、2学期の学習内容の総まとめであると同時に、今までの考査と同様に進路選択にも関わる大切なテストです。自分が目指す進路や将来の夢を明確にし、そのために何が必要なのかを考え、学習に対する意欲を向上させていきましょう。

＜来週以降の予定＞

日付	予定	持ち物・提出物・注意事項
5日（月）	全校朝礼	※合唱コンクール前日まで、45分授業・合唱放課後練習。
6日（火）	租税教室	
7日（水）	5時間授業	
8日（木）	通常授業	
9日（金）	通常授業	
10日（土）		
11日（日）		
12日（月）	スポーツの日	
13日（火）	学校公開週間始 学習発表会リハーサル（放課後）	
14日（水）	5時間授業	
15日（木）	⑤⑥合唱コンクールリハーサル	
16日（金）	⑤⑥前日練習・準備	
17日（土）	土曜授業・学校公開週間終 合唱コンクール（午前） 学習発表会（午後）	
18日（日）		
19日（月）	振替休業日	

＜学年朝礼でのスピーチ紹介＞

9月18日（金）の学年朝礼でのスピーチです。

1組

今日9月18日は、25日の中間テストまで1週間前となります。皆さん、テスト勉強の進み具合はどうでしょうか。『もうバッチリ』という人もいれば、焦り始めている人もいます。テスト前は覚えることも多くて大変ですが、この1週間の過ごし方で結果は大きく変わります。わからない問題があれば一人で抱え込まず、休み時間に友達と教え合ったり、先生に聞きに行ったりして、学年みんなでこのテスト期間を乗り越えていきましょう。

今日からの1週間、体調管理にも気をつけながら、悔いの残らないように全力で頑張りましょう。

2組

今日で中間考査一週間前になりました。いよいよ2学期最初の中間考査が始まります。今回のテストは、僕たちの進路を大きく左右する重要なステップです。受験への不安やプレッシャーを感じている人も多いと思いますが、一人で抱え込む必要はありません。この学年の仲間とお互いに教え合い、励まし合いながら、全員でこの壁を乗り越えましょう。日頃の勉強の成果を十分に発揮し、最高のスタートを切れるよう、最後まで諦めずに頑張りましょう。

2組

今日はファッション界に大きな影響を与えたデザイナーの話をします。

1970年代まで、スーツは厚い肩パッドで身体を締め付ける、いわば「鎧」のようなものでした。その常識を覆したのが彼です。彼はスーツから固い芯やパッドをすべて取り除き、カーディガンのように軽やかで、身体のラインに美しく沿うスーツを生み出しました。それまで服の奴隷だった人間を、彼は服から解放したと言われています。この革新は、1980年の映画で主演俳優がスタイリッシュに着こなしたことで世界的なブームとなりました。さらに彼は、社会へ進出する女性たちのためにメンズの仕立てを応用したスーツも発表し、時代を切り拓く人々に揺るぎない自信を与えていきました。

そんな彼は、ファッション会に一石を投じるこのような名言を残しています。

「エレガンスとは、他人の目を惹くことではなく、他人の記憶に残り続けることだ」

派手なデザインで一瞬だけ目を引くのではなく、着る人の個性を最大限に引き立て、その人自身の魅力を記憶に刻む。これこそが、彼が追求し続けた真のエレガンスの哲学です。常識を疑い、主役である「人間」を中心に据える。この彼の強い信念とタイムレスな精神は、誕生から半世紀近くが経った今もなお、世界中の人々を魅了し続けています。

3組

テストが近づいてきましたね。そこで今日は鉛筆について話していきたいと思います。鉛筆は、黒鉛という黒い部分と木の部分でできていて、発祥は16世紀のイギリスとされています。黒鉛という字は「黒い鉛」と書きますが、黒鉛が発見されたときに鉛に似ていたことから黒鉛と呼ばれるようになりました。当時は黒鉛に触れると手が黒くなっていたので、紐を周りに巻きつけたり、黒鉛を木の板で挟んで使ったりしていました。その後、フランスでコンテという人が、黒鉛の粉末に粘土を混ぜて固める製法を開発しました。これにより、芯の硬さや濃さを自由に調整できるようになりました。また、鉛筆の「H」や「B」は鉛筆の硬さを示す記号で、Hは「硬い」を意味する英単語の「hard」からきており、Bは「黒い」を意味する英単語の「black」からきています。また、「F」というHとBの中間の硬さもあり、これは「しっかりした」を意味する英単語の「Firm」からきています。

